

令和7年度 八王子市立上柚木小学校 学校経営報告

<令和7年度の目標と方策>

1 確かな学力の向上 (◎よく考える子(知))

具体的方策	評価項目	成果と課題
<p>①取り残さない</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>市学力調査の結果とドリルパークの活用</li> <li>はちおうじっ子ミニマムを6年生全員ができるようにする</li> </ul>	<p>①取り残さない</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>市学力調査(4～6年)の分析(算数・国語) 習得目標問題の満点の習得率</li> <li>はちおうじっこミニマムを全員ができるようにする (全問正解者数、率)</li> <li>ドリルパークの活用率 →活用状況</li> <li>朝学習の時間(8:25～8:40)の実施状況</li> </ul>	<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>ドリルパークで宿題を行ったことで、一人一人の学習の状況の把握ができた。また、宿題の採点という点で時間の短縮ができた。</li> <li>計算の宿題をドリルパークで毎日行った。また、朝学習でもドリルパークに取り組むことが多かった。取り組み状況が確認できるので、取り組んでいない児童には声掛けや月・金の6時間目に一緒に行くことで、ほぼ全員が取り組むことができた。</li> <li>学期末に一つ下の学年のベーシックドリル A 問題 B 問題に取り組ませ、つまずきが多かった単元の復習課題を、ドリルパークを活用して長期休みに課題配信した。95%の児童が取り組み、学力の定着と底上げができてきた。</li> <li>学力調査「算数」の6年生は、1回目「数と計算」をはじめ、全国との比較が全部マイナスポイントであったが、機会がある毎にドリルパークやプリントで復習を繰り返して定着を図り、2回目では大体プラスに転じた。</li> </ul> <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>学力調査で国語は、「漢字の書き取り問題」が一番の課題。内容の区分としては、「書くこと」「話すこと・聞くこと」を苦手としている。漢字の書き取り問題(短答式)では、無回答児童も他より多めである。</li> <li>5年生は学力調査の国語科の数値が低い結果となった。授業の中で思考力を高められるような活動を取り入れたが、個別の支援を要する児童には難しい活動であった。</li> <li>学力調査「算数」は5年生の「数と計算」の領域に一番課題が残った。分数のたし算ひき算など5年生で習う基礎的な問題を忘れてしまった児童が多かった。5年生になると内容が難しくなったこともあり、単元ごとには理解できても定着していない現状である。通分、約分などを含めて基礎的な問題を繰り返し復習する時間を多く取り、定着を図っていく。</li> </ul>
<p>②基礎的基本的な事項、学力を定着する(読み・書き・計算、学習用端末の活用)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>豊かな言葉を育成する(読書活動の充実:読書週間・POP コンテストへの全校児童参加)</li> </ul>	<p>②読み・書き・計算、自立した家庭学習の習慣化</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>児童定着率(保護者アンケート結果)</li> <li>学習用端末を活用した家庭学習の実施状況</li> <li>豊かな言葉を育てる実践について 読書活動の充実</li> <li>各学級の設定読書目標の結果について</li> <li>本のPOP コンテスト結果について</li> <li>音読</li> <li>朝学習の時間、放課後の時間の活用</li> <li>家庭での学習(保護者の協力体制)</li> <li>外国語1～6年で実施</li> </ul>	<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>読書旬間中の各学級の読書目標達成は、10クラス中9クラス達成し、読書活動が充実したため、約10日間で全校1585冊を読むことができた</li> <li>図書委員会では、読書活動の充実のため児童発案の様々なイベント(貸し出し冊数を増やす取り組みや本に親しむ取り組み)を主体的に行っているのが良い。次年度以降も児童の主体性を大切に委員会活動を期待する。</li> <li>本のPOP コンテストも、9割以上が参加し、7人が入賞した。 1・2年 最優秀1名、優秀1名、入賞2名、平和賞1名 3・4年 優秀賞1名 5・6年 入賞1名</li> </ul> <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>6年児童が入賞したが、著作権の問題でHPに作品を掲載することができなかった。あらかじめ注意点などを周知する必要がある。</li> </ul>
<p>③主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善をする</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>子供が主語になる学習活動を行う(自分事ととらえる)</li> <li>問いを引き出す、交流の工夫をする(伝える、発表する場面の設定と機会の重視)</li> <li>自分で考える、選べる(判断)、決められる(決断)、伝える(自分の言葉で)</li> </ul>	<p>③実施状況から</p>	<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>タブレット端末を活用し、学習問題ごとに一人一人が自分のペースで探究することで、個別最適な学習を実現した。子供自身が問いをもち、考えを選び、判断して伝える場面を設定することで、学習を自分事として捉え、主体的・対話的で深い学びにつながることができた。</li> <li>児童一人一人がそれぞれ考えをもち、交換タイムを通して伝えるための基本的な型は身に付き、伝える力が身に付いてきている。</li> <li>交換タイムがあることで自分の意見に自信が持て、交友関係が広がることでクラスでの発言が増えた。</li> <li>体育健康教育の研究をしていることもあり、体育科でタブレット端末を使用し、自己や友達の課題の発見に役立ち、解決させるためにアドバイスをし合うなど主体的・対話的な学びにつながった。</li> <li>校内研究のテーマと関連して体育科では、課題を明確にした学習活動を行った。課題に対する意見交流が活発となり、すすんで児童が関わる姿が見られた。また、学習を積み重ねる中で児童自ら新たな課題を設定する姿も見られた。</li> </ul>

<p>④学習用端末を日常的に活用する（学習や個に応じた効果的な・協働的な学びの活用）</p>	<p>④授業支援ツールの導入と授業実践</p> <p>○学習に応じた効果的な活用</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・個に応じた活用、協働的な学びの活用</li> <li>・普段使いの活用方法の拡大について</li> <li>・効果的な活用方法について</li> </ul> <p>○普段使いの実践について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「朝学習」「授業中」「家庭」</li> </ul> <p>○ドリルパークの活用について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・個に応じた活用、協働的な学びの活用</li> <li>・ミライシードの機能を活用について</li> </ul> <p>○Googleのシステムを活用について</p> <p>○研修や情報共有について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・非常時のオンライン活用について</li> </ul> <p>教員が学校に来ることが出来ない場合 オンラインでの会議、オンライン授業 学校公開・学校行事でのオンライン配信 登校渋りの児童のオンライン対応</p>	<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・1週間に2回、10分程度、主に学習の習熟としてドリルパークを活用できた。</li> <li>・写真を撮る、検索する（音声）も全員が操作できるようになった。</li> <li>・植物の観察（アサガオ・チューリップなど）にオクリンクのカメラを活用できた。</li> <li>・電子書籍、プログラミングに取り組むことができた。</li> <li>・夏休み、冬休みは課題配信を行い、家庭でも活用してもらうことができた。</li> <li>・総合的な学習の時間に1学期「日光について」2学期「SDGsについて」3学期「職業について」等、毎学期自分で課題を決め、Googleスライドにまとめて発表することができた。</li> <li>・カフォートを効果的に使用することができた。（前時の復習、単元のまとめ【テスト前】等）</li> <li>・社会科の学習では、問い→予想→調べ学習→まとめの流れで学習を進めることが多かった。</li> <li>・毎日の家庭学習、夏休みの課題で効果的に使用することができた。</li> <li>・道徳と体育科では、毎時間の感想や振り返りでオクリンクプラスを活用した。友達の意見を参考にしながら記入する姿も見られるなど、活用することができた。</li> <li>・新出漢字を学んだ直後に、ドリルパークでその字の書き順を確かめたり使い方を学んだりした。</li> </ul>
<p>⑤上柚木小学校のレガシーを継続する（学習の成果を表現する・発表する・伝える）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・運動会（体育）、「音楽」「図工」発表会（音楽・図工）、学校公開（授業公開）</li> </ul>	<p>⑤実施状況から</p> <p>保護者アンケートの肯定的な回答</p>	<p>⑤【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・それぞれの行事や学校公開において、運営の仕方に保護者からの要望や意見をいただくことはあるが、「学習の成果を表現する・発表する・伝える」の観点での児童の活動や頑張り、成長については、そのほとんどが好意的、肯定的に受け止められ、評価をいただいている。表現する力、発表する力、伝える力は今後も各教科、特別活動等でも身に付けられる指導を継続する。</li> </ul>
<p>⑥家庭と連携し、家庭での学習の自立を習慣化する（家庭での学習「読み・書き・計算」「宿題」）</p>	<p>⑥家庭学習の取組について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・児童の発達段階に応じた家庭での学習</li> <li>・低学年の受容型の家庭学習から、高学年の主体的な家庭学習の移行について</li> <li>・学校から家庭への啓発を行い、共通理解のもと自立した家庭学習の習慣化を目指す</li> <li>・小学校卒業時には、児童が家庭学習においても自立した学びができる</li> </ul>	<p>⑥【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・家庭学習は「習慣化」をめあてに、新出漢字、その日隠内容の計算ドリルを毎日のルーティンとした。量は少なくし、全員が達成できるように設定した。また、漢字の50問テストは、学年で共通した日時に実施し、そこまでの試験範囲を明確に提示した。それに向かって自主的に取り組む姿勢を大切にした。</li> <li>・宿題の量が多いと指摘された。無理せず量を少なく、「家庭学習の習慣化のためのお手伝いの一つ」と強調したい。</li> </ul>

2 豊かな人間性の育成（○仲よく、協力する子（徳））

具体的方策	評価項目	成果と課題
<p>①自他ともに尊重する態度を育成する（受容する・違い（多様性）を認める気持ちをもつ）</p> <p>②自己肯定感・自己有用感（大切にされる実感・価値のある存在と思う実感）を育成する</p> <p>③コミュニケーション能力を育成し、高める（聞く力・話す力・伝え合う力をつける）</p> <p>④社会人となる基礎を育成する（あいさつ・言葉遣い・礼儀・規範意識・自主自律）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「ありがとう」「ごめんなさい」が素直に言える子供たちを育成する</li> <li>・人権教育と道徳教育の充実、たてわり班活動、ゆず</li> </ul>	<p>①②③④</p> <p>年間を通して活躍の場、児童の良さを見だし、伸ばす場面を設定について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・各学級での係、当番活動、</li> <li>・たてわり班活動（めあてをもった活動について）</li> <li>・クラブ、委員会活動</li> <li>・学級、学年行事</li> <li>・運動会、「音楽」「図工」発表会等の学校行事</li> <li>・教職員自らが実践し、あいさつや正しい言葉遣い、礼儀等の指導の全校での継続についての実施状況・意識調査</li> <li>・人権教育、道徳教育の充実</li> <li>・ゆずっこフェスティバル</li> <li>・「いいところ応援計画」全学級1実践以上</li> <li>・上柚木進化プロジェクト（児童会が主体となった取り組み）</li> </ul>	<p>（成果）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・年間を通して行事、たてわり班や児童会活動など多様な活躍の場を設定し、互いを認め合い、自己有用感を高めることができた。</li> <li>・たてわり班活動では、たてわり遊びや美化活動だけでなく、代表委員主催のたてわり班スタンプラリーや長なわ遊びといった活動を実施し、活動の広がりをもたせ、異学年の交流を活発にすることができた。</li> <li>・「上柚木小学校が自分の居場所であり、仲間との絆を感じられる場所」が感じられる保護者学校評価アンケートの肯定的な回答は91.7%</li> <li>・「あいさつや正しい言葉遣い、礼儀等の指導」等、生活指導の取り組みに対する保護者学校評価アンケートの肯定的な回答は92.7%</li> <li>・キャリア教育（キャリアパスポートの効果的な活用と実践の積み重ね）に対する保護者学校評価アンケートの肯定的な回答は92.7%</li> <li>・人権教育、道徳教育の充実に対する保護者学校評価アンケートの肯定的な回答は93.6%</li> <li>・運動会、「音楽」「図工」発表会等の学校行事に対する児童への指導について、保護者学校評価アンケートの肯定的な回答は91.7%</li> </ul>

<p>っこフェスティバル、いいところ応援計画、上柚木進化プロジェクト、小中合同の取組</p> <p>⑤学校が「安心できる自分の居場所」と感じられる場所にする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・いじめを許さない</li> <li>・重大ないじめに発展させない風土を醸成する</li> <li>・不登校・登校渋りの児童を取り残さない。社会とつなげる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・キャリア教育（キャリアパスポートの効果的な活用と実践の積み重ね）</li> <li>・上柚木小学校が自分の居場所であり、仲間との絆を感じられる場所とするために、児童と教職員で楽しみながら取り組む風土をつくることについて</li> </ul> <p>⑤実施状況</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・授業等で、友達の考えを肯定的に聞き合い学びあえる学習環境についての実施状況</li> <li>・児童アンケートの肯定的な回答率</li> </ul>	<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・不登校児童については、SSW・SCと繋げることやオンライン授業に参加させるなど、様々手立てを打つことで不登校・登校渋りの児童を社会と繋げることができた。</li> <li>・生活アンケート、ふれあいアンケートで担任が児童の気持ちを適切に理解し、児童に寄り添うことができた。</li> <li>・毎月のアンケートと聴き取り指導を何度も繰り返し執り行っていることで、児童の「いじめはいけないことである」という意識向上につながっていると感じる。また、毎週の生活指導夕会は、教員間の情報共有により児童間のトラブルも軽微な段階で食い止めることができています。</li> <li>・不登校・登校渋りの児童が学校との繋がりを絶たない様に、欠席時には電話やH&amp;Sを用いて家庭に様子を伺ったり、授業や翌日の時間割など必ず連絡を入れたりしている。校内委員会にてSCとも面談の様子や現在の状況など情報を共有し対応することができている。</li> <li>・いじめを許さない、重大ないじめに発展させない等の学校のいじめ対策についての保護者学校評価アンケートの肯定的な回答は94.5%</li> </ul> <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・児童間のトラブルの原因の一つとして「言葉の使い方」が考えられる。言語環境を整えることについて、校内で共通の取り組みがあるとよい。</li> <li>・オンライン授業参加ができて、そこから教室参加へは至っていない状態が見られる。学級での活動や行事への参加から登校への積極性を促していきたいのと、学級担任から事前に学級での予定配布など見通しをもたせることで登校喚起が図れたらいい。</li> <li>・登校渋りの児童に関して、家庭と学校との連携がうまくできていないと感じることがある。学校側と家庭とで話し合っ対応の仕方を共有できるようにしたい。</li> <li>・放課後のトラブルに、どこまで学校が対応するのか。学校が「何でも屋」にならないようにしていきたい。</li> </ul>
--	--	---

### 3 健やかな心と体の育成（〇明るく、がんばる子（体））

具体的方策	評価項目	成果と課題
<p>①キャリア教育を推進する（キャリアパスポートの効果的な活用と実践の積み重ね）</p>	<p>運動会（体育）、「音楽」「図工」発表会（音楽・図工）、学校公開（授業公開） 学校レガシーの実践</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>➡体育、音楽、図工の実技教科の学習成果を発表する学校行事を学校レガシーとする</li> <li>➡改まった場で、学年相互が発表を見合い、保護者、地域に向けて発表する機会とする</li> <li>・学習の成果を発表する学校行事として、1学期運動会、2学期音楽会と作品展の同時実施（学年は隔年で取り組む：6年生が音楽会）</li> <li>・各学年で対象学年や対象者を決めて、積極的に発表する機会を設ける</li> <li>・保護者アンケート自由記述の肯定的な回答</li> </ul>	<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・キャリアパスポートも運用5年目になり、前年の行事に対する自分の考えとの比較ができるようになり、運用の効果が上がってきている。</li> <li>・「キャリアパスポートの効果的な活用と実践の積み重ね」に対する保護者学校評価アンケートの肯定的な回答は92.7%</li> </ul> <p>【運動会の成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学習の成果発表の場ということで、全学年徒競走を実施し、児童それぞれの体育としてのめあてをもった指導ができた。</li> <li>・ソーランも学年ごとの特徴を活かした指導で発達段階に応じた指導ができた。学年を追うごとの積み重ねの効果で、限られた時間の中で指導ができた。</li> <li>・保護者参加競技も2年目になり、保護者もスムーズに入退場できるようになった。今後も地域とのつながりの一つとして実施していきたい。</li> </ul> <p>・それぞれの行事や学校公開において、運営の仕方に保護者からの要望や意見をいただくことはあるが、「学習の成果を表現する・発表する・伝える」の観点での児童の活動や頑張り、成長については、そのほとんどが好意的、肯定的に受け止められ、評価をいただいている。表現する力、発表する力、伝える力は今後も各教科、特別活動等でも身に付けられる指導を継続する。</p>

<p>②校内研究を推進する（健やかな心と体を育む体育健康教育の実践を通して、豊かな心を育成する）</p> <p>○学びに向かう心と体を育成する</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・基礎的な体力を育成し、高める（体育の授業・休み時間や朝、放課後の遊び）</li> <li>・運動や体を動かすことへの関心や興味を高める。「たのしい」「わくわく」「諦めない」「続ける」「すすんで」</li> <li>・体育、保健の授業を充実する（授業改善と指導力の向上）</li> <li>・仲間との良好な関わり方を身に付けさせる（聞く・話す・伝え合う・認め合う）</li> </ul> <p>➡運動会、たてわり班活動、なわとびチャレンジ（短なわ、長なわ）、持久走チャレンジ</p>	<p>②実施状況</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・児童アンケートの結果から</li> </ul>	<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・特活では体育的行事として「短なわ週間・持久走週間・たてわり長なわ」を実施した。限られた期間ではあるが、休み時間に目的をもって自主的に体を動かす児童が多数見られた。</li> <li>・養護教諭が保健や生活の授業をTTで行うことで、児童の深い学びにつなげることができた。</li> <li>・今年度の研究授業は低学年と高学年の2つの分科会で行ったため、時間にゆとりをもちながら研究を進めることができた。また、研究授業の前にOJTを行い、体育科の基礎・基本を学んでから取り組むことができた。</li> <li>・校内研究の講師を小教研体育部の部長にすることで、担任と近い立場の話を聞いたり、すぐに取り入れられる工夫を知ったりすることができた。</li> <li>・高学年ブロックは若手の先生が授業者として立候補し、高い意欲で教材研究に励んでおり、校内の指導力向上に大きく貢献した。</li> </ul> <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・たてわり長なわに関しては、実施初年度のため、児童がどのように自主的に参加して良いかわからない様子も見られた。今後教員側からの具体的な働きかけが必要である。</li> </ul> <p>体育運動アンケート</p> <p>1. アンケート結果の比較（割合による分析）</p> <p>回答者数は、前期203名、後期200名だった。主要な項目の推移は以下の通りである。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・運動や体を動かすことへの意識 前期では「好き」「まあまあ好き」を合わせた肯定的な回答が約91.4%（191名）だったが、後期には95.0%（190名）へと微増しており、依然として非常に高い水準を維持している。</li> <li>・体育の授業に対する満足度 「好き」「まあまあ好き」と答えた児童の割合は、前期の約94.1%（191名）に対し、後期は89.5%（179名）と、約4.6ポイントの微減となった。</li> <li>・放課後の過ごし方 「公園などでの外遊び」をしている児童の割合は、前期の32.5%（66名）から後期の41.0%（82名）へと8.5ポイント大幅に増加した。一方で、「あまり遊んでいない」と回答した児童は前期の20.2%（41名）から後期の14.5%（29名）へと減少しており、放課後の活動が活発化している傾向が見られる。</li> </ul> <p>2. 成果：運動への意欲と相互評価の定着</p> <p>今回の比較から、以下の点が成果として挙げられる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・外遊びの習慣化 放課後に公園などで積極的に体を動かす児童が増え、運動不足を感じている児童の割合が減少したことは、健康増進の観点から大きな成果である。</li> <li>・アドバイスを通じた学びの深まり 体育の授業で「楽しい」と感じる場面として、「友達にアドバイスしてできるようになった時」が前期71名から後期74名へ、「アドバイスされて自分ができるようになった時」が前期85名から後期87名へと、それぞれ増加または維持されている。技能の向上だけでなく、友達との関わりの中で学び合う姿勢が育っている。</li> <li>・冬の運動への取り組み 休み時間の活動として、前期には見られなかった「なわ跳び」に取り組む児童が後期には9名（約4.5%）現れるなど、季節に応じた運動に自発的に取り組む様子が見られる。</li> </ul> <p>3. 課題：授業の魅力向上と休み時間の過ごし方</p> <p>一方で、今後の改善に向けた課題も明確になった。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・体育の授業の満足度の維持 満足度が約90%と高い水準ではあるものの、前期に比べてわずかに低下した要因を分析し、すべての児童が「楽しい」と実感できる授業づくりを継続する必要がある。特に、後期に「好きではない」と答えた児童が5名（前期は1名）に増えた点は真摯に受け止めるべき課題である。</li> <li>・休み時間の室内活動の多さ 休み時間に「教室で過ごしている」児童は、前期32.5%（66名）、後期30.0%（60名）と、依然として約3割の児童が室内で過ごしている。外で遊ぶきっかけ作りや、多様な遊びの提案が必要である。</li> </ul>
--	--	--

<p>③遊びや体育、健康な生活の『環境』を整え、取り組みを自分事として捉えさせる</p> <p>○望ましい生活習慣と食育を推進する</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・遊びを充実する (休み時間と朝遊び・放課後遊び(ゆずっこひろばとの連携))</li> <li>・特別活動や体育的行事を充実する</li> <li>・食の習慣づくり (給食指導「もったいない(SDGs)」の取組、おはし名人等)</li> <li>・生活習慣づくり(生活リズム表(長期休業明け)、ノーメディアチャレンジ等)</li> </ul>	<p>③実施状況</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・児童アンケートの結果から</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・勝負への意識の低下 授業で「勝負に勝った時」を楽しいと感じる児童が、前期124名から後期114名へと減少した。競い合いの中にある楽しさや、チームで戦略を立てる面白さをより伝えていく工夫が求められる。</li> </ul> <p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・特活の体育的行事として、委員会を中心にキャンペーンの呼びかけをした。その成果か、全学年で自主的に運動に参加(休み時間における全児童の約80%)する児童が増えた。</li> <li>・生活リズムカードを用い、夏季休業中、登記休業中の生活リズムの目標設定と振り返りを児童と家庭で行った。「カードがあったおかげで、自分で目標を立て、自分で実施した」等の生活習慣を自ら整えようという意見が多かった。</li> </ul>
--	--	---

#### 4 安心・安全な学習習慣の整備

具体的方策	評価項目	成果と課題
<p>○いじめ防止対策を徹底する (いじめはある、が…)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・人権・道徳教育を充実する (自他を価値ある大切な存在と尊重する心を育む)</li> <li>・未然防止、早期発見・早期対応に努め、重大ないじめに発展させない</li> <li>・金曜日6校時 週1回のいじめ対策委員会の開催(いじめに向き合う時間)</li> <li>・いじめの把握と認知、法に則った適切な対応、保護者との連携 (毎月の生活アンケート、ふれあい月間6月・11月(2月)のいじめアンケートの実施)</li> </ul> <p>○落ち着いた学習環境と生活環境を整備する。不登校、登校渋りの児童への支援体制を充実する (生活指導・教育相談の充実:校内委員会、SC、学校心理士等))</p>	<p>○いじめ問題の組織的な対応(実施状況)</p> <p>○校内委員会、SC、学校心理士、SSW等との連携(実施状況)</p>	<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・6月のふれあい月間と併せて「いのちの大切さ」などについて、全校朝会での校長講話。繰り返し行うことで意識できるようになることが期待できる。</li> <li>・年3回のふれあい月間の際各クラスで、いじめや命について考えるための授業を行っている。</li> <li>・毎月の生活アンケートにより、児童の声を拾うことができている。トラブルに発展しそうなことは、すぐに生活指導夕会での情報共有、いじめ対策委員会での対応検討ができています。</li> <li>・生活指導関連で校内指導したことについて、必ず家庭へ連絡し情報共有するようにしている。家庭での様子についても、保護者が学校を頼って相談してくることもある。相手の気持ちに寄り添い、丁寧な対応ができています。</li> <li>・いじめを許さない、重大ないじめに発展させない等の学校のいじめ対策についての保護者学校評価アンケートの肯定的な回答は94.5%</li> </ul> <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・軽微なことでも事実一覧に記録を残すよう都度声をかけているが、データへの一斉記載ができないため、記載漏れが生じてしまっている。</li> <li>・毎月の生活アンケートの実施と聞き取りに要する時間がなかなか捻出できず、対応が遅れてしまうことがある。児童の書き込みにはすぐに目を通し、緊急性のあるものから聞き取るようにするなど工夫し、対応が遅れないようにする。</li> </ul> <p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・今年度より校内委員会にSSWに参加してもらい、校内の児童の情報共有ができ、比較的スムーズに不登校児童。保護者とSSWを繋ぐことができた。SC、SSW、登校支援コーディネーター、担任で登校支援について協議し支援を進めることができた。また、6年生の不登校傾向児童については、中学進学に向けて中学の不登校対応教室の体験を勧めることができ、中学校の登校喚起に繋がっている。</li> <li>・校内委員会の開催と運営がしっかりとできている。SCやSSWを参加させ専門的な意見をもらいながら関係機関に繋いだり連携したりする対応ができた。</li> <li>・児童と保護者に寄り添いながら、必ずしも「学校(教室)」へ戻ることを目標にするのではなく、進捗がみられなくても、その時にできることを提示しながら児童保護者の同意を得て対応している。</li> </ul>

<p>○各種感染症予防・熱中症対策に留意する（子供たちの学びを止めない）</p>	<p>○社会情勢に柔軟に対応。コロナ禍で学んだ知見や経験を生かして（実施状況）</p>	<p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ほとんど学校に登校出来ていない児童への対応が滞っている。保護者との有効な連携の回り方について検討していきたい。教室へ入りづらい児童の居場所の確保も確実にできていないので、手立ても検討していく。</li> </ul> <p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・うがい手洗いの呼びかけ、換気、校内のいたるところにアルコール消毒を設置、給食配膳時の全員マスク着用等が適切に行われ、他校が学級閉鎖する中で、本校はインフルエンザ、コロナによる学級閉鎖がなく過ごせていた。（2月中旬に1年生が学年閉鎖3日間）</li> <li>・熱中症においても、WBGTにより正しく校庭での運動制限を行い、校内で重症な熱中症の発生はなかった。また、運動制限で児童の学びを止めないよう、冷房で適切に管理された体育館を解放し、児童が適切に運動することができた。</li> </ul> <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・熱中症について、5月、6月に急激に気温が上昇する日があり、児童が暑さに慣れない中で運動会の練習や体力テスト等をしなければいけない点である。今後も気温上昇は続いていくため、計画通りすすめていいのか常に念頭に置いて工夫しながら実施していく必要がある。</li> </ul>
<p>○災害時等のマニュアル確認・安全点検、安全指導を徹底し、必要に応じて改善する（施設安全や環境整備については、事務職員、用務主事、市教委と連携する）</p> <p>○安全教育の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・SNS学校ルールの周知定着（SNS被害防止教室）</li> <li>・セーフティ教室の内容充実（実態の保護者周知）</li> <li>・子ども家庭支援センター・児相・就相等との連携</li> <li>・解決までの継続的な支援体制の確認</li> <li>・関係機関との報・連・相の徹底と記録</li> </ul>	<p>○危機管理体制の整備（実施状況）</p>	<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学校の安全管理（施設安全や環境整備について）に対する保護者学校評価アンケートの肯定的な回答は99.1%</li> <li>・家庭が子供の異常に気付いていても対応ができずに困っていた、心のケアが必要な児童について、SSW・医療とつなげることができた。相談できる人や場所ができ保護者も安心を得ることができた。</li> <li>・セーフティ教室を活用し、SNSについてルールや正しい利用法など具体的内容を児童と保護者対象に講義をしていただいたことにより、SNSの乱用の怖さなど危機感を持ち、正しく利用することへの意識につながった。</li> </ul> <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・SNS学校ルールの周知やSNS被害防止教室（セーフティ教室）を行っていても、児童のスマホ所持は低年齢化の流れは止まらない。与える保護者への注意喚起等は今まで通り行う必要がある。合わせて「学校としてスマホを子供に持たせない」「保護者によるSNS管理」については、年度当初の保護者会できちんと示す。学校だよりもデータ配信なのでページを気にする必要はないので毎回巻末に配布した文書を添付する。</li> <li>・SNSについて、毎年一斉指導、高学年にはさらにと何度も指導しているが、頭では解っていても他人事の様にはしか捉えておらず、トラブルが絶えない。具体事例を聴いて理解に加え、疑似体験により考えさせたり、グループワークで話し合ったり、自分事として考える機会があると、少しは「ちょっとまてよ？」が働くようになるかも知れない。</li> <li>・「危機管理マニュアル」の見直しが不十分であった。生活指導部の年間計画の中に入れ込み、毎年見直しができるようにする。</li> </ul>
<p>○月曜日6校時枠は「子供に向き合う時間」として学習支援と指導・相談・教材研究等を行う</p>	<p>○実施状況</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・月曜日6校時枠については毎月1回委員会活動として設定し、それ以外を「子供に向き合う時間」として設定した。それぞれの学級・学年で学習支援を行うだけでなく学年会を設定し、学年での児童の状況把握や教材研究などを行うなど、適切に活用することができた。</li> </ul>

## 5 保護者・地域・関係機関との連携

具体的方策	評価項目	成果と課題
<p>○保護者・地域へ積極的な情報発信をする（H&amp;S、ホームページ等）</p>	<p>○実施状況</p>	<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学校の情報提供の適切性に対する保護者学校評価アンケートの肯定的な回答は96.3%</li> <li>・学校はホームページ（行事や日常の学校生活、毎日の給食、）ホーム&amp;スクールでの保護者への連絡、情報提供、学級通信等を活用し、保護者も情報確認をしてくれている。</li> </ul>

<p>○地域の教育力を生かした教育活動を展開する。学校運営協議会、ゆずっこひろば（放課後子ども教室）、かみゆぎ小スマイルサポーター、青少年対策委員会との連携</p>	<p>○実施状況</p>	<p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・緊急時（台風や大雨警報）の情報提供の際にアクセスが集中して不具合が発生する対応としてバックアップの体制として（TETORU）を導入する。</li> <li>・現在、（TETORU）未登録者は7名、そのうち4名が6年生の保護者、4年生の保護者1名、2年生の保護者2名である。副校長から連絡して登録を促す。</li> </ul> <p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学校評価自由記述にもあったが「ゆずっこひろば」の存在が学校の大きな魅力の一つであると評価している保護者が存在している。毎日の朝、放課後遊びや多数のサークル活動により救われている児童や家庭は存在する。児童間のトラブルやけがの対応にも応じてもらえることで学校も助かっている。</li> </ul> <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「できるときに・できるひとが・できることを」で、かみゆぎ会から、かみサポに体制を変え、保護者ボランティアを募り活動することにしたが、青少年対策委員会行事の取り組みについて思うように保護者ボランティアが集まらず、かみサポリーダーチームに負担がかかりすぎている。小中一貫教育上柚木中学校グループとして、望ましい関わり方を考えていく必要がある。</li> </ul>
<p>○小中一貫教育を推進し一層充実させる</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・上柚木中学校グループ（上柚木小学校、上柚木中学校、愛宕小学校）が一体となった取り組みを行う</li> <li>・小中グループの義務教育9年間で育てる力の出口を『自己決定・自己実現』を目指す</li> </ul>	<p>○実施状況</p>	<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・小中一貫教育の取り組みの認知に対する保護者学校評価アンケートの肯定的な回答は98.2%</li> <li>・小中一貫教育の日での意見交流など、内容が充実し3校の状況や取り組みが理解し合えるようになった。</li> </ul> <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「小中一貫教育をしていることは知っているが」が保護者の認知であり、具体的な取り組みや成果について理解が深まっていくのはこれからである。9年間を見通したキャリア教育の取り組みや「自己決定・自己実現」の具体的な姿を見せる上柚木小学校の姿が見えるようになることが課題である。</li> <li>・生活指導での取り組みとして現段階で3校が共通して行っているのは「あいさつ」だが、互いの活動が見えにくい。同時期に「あいさつ週間」を設けるなどしていけるとよい。</li> </ul>
<p>○保幼小連携を推進する（近隣保育園・幼稚園）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・スタートカリキュラムで連携</li> <li>・園児と児童の直接交流（1年生、5年生）</li> <li>・教員間の交流</li> </ul>	<p>○実施状況</p>	<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・スタートカリキュラムについて、保幼小ですり合わせをすることができた。</li> <li>・幼保小架け橋期プログラムの策定ができた。</li> </ul> <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・特別支援教室利用について、申し込み締め切りが8月末であることを、保育園、幼稚園に周知徹底していくことが必要かと感じた。締め切りが過ぎてから教室の見学にいらして、新1年生の4月から利用できると思っている方がいるように感じる。</li> <li>・園ごとに方針は違う。入学する子供はたくさんの園からやってくる。架け橋期のカリキュラムをまとめ一つのものを作るのは難しいと思う。</li> </ul>
<p>○特別な支援や配慮を必要とする児童や家庭と関係機関をつなぐ</p> <p>○特別な支援や配慮が必要な児童や家庭と関係機関をつなぐ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・月1回の校内委員会を実施する</li> <li>・特別支援コーディネーターを活用する</li> <li>・登校支援コーディネーターを活用する</li> </ul>	<p>○実施状況</p>	<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・特別支援教室の教員が特別支援教室に在籍している不登校傾向の児童へ状況や気持ちの聞き取りや登校喚起のアプローチを図り、継続的に登校することに繋げることができた。校内委員会で児童の様子について支援教室教員が情報提供し登校の状況について把握することもできた。</li> <li>・巡回相談心理士を活用したり、特別支援教室教員が在籍学級の個人面談に同席したりすることで、多くの児童を特別支援教室利用や、支援シート作成、発達検査を受けることなどに繋げることができた。</li> <li>・校内委員会で毎回、不登校児童や不登校傾向がある児童について情報共有をし、組織的に対応することができた。</li> <li>・教育相談全体会を、年2～3回行うことで、配慮を要する児童の共通理解を図ることができた。</li> </ul>

		<p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>支援教室教員と保護者との面談について重要な話題が出てきた時に、その情報が一部の教員にしか伝わっていない。情報共有できる有効な方法について探っていきたい。</li> </ul>
--	--	--

6 組織的な学校運営、責任ある分掌運営

具体的方策	評価項目	成果と課題
<p>○各職種、職層（主幹教諭、主任教諭、教諭）の実践課題を明確にし、適切に職務を執行する</p> <p>教育活動の精選とねらいの明確化</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>「何のための学習活動か」「児童にどのような力を付けさせるのか」を意識した教育活動を設定</li> <li>学校的意思決定と合意形成のため、職員会議と連動した企画会や運営委員会を開催する</li> </ul> <p>○各分掌の担当が計画的に進行できる運営体制（H&amp;Sを活用したPDCAの見える化）</p> <p>○各分掌の担当が計画的に進行できる運営体制と業務進行管理（点検・整理）</p> <p>○決定手順の徹底と会議の効率化（事前資料検討、報告事項・協議事項の明確化）</p> <p>○サービス事故防止（日常的な指導と情報提供、サービス事故防止研修、体罰チェックリスト、ガイドラインの活用）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>体罰をおこさせない組織的な指導体制と研修の実施（チェックリストによる点検月1回）</li> <li>私費会計および、個人情報の取扱規定、出張時における適正な事務手続きを徹底</li> <li>個人情報取り扱いマニュアルの作成（4月）</li> <li>保健カード等の確認チェック表作成（4月）</li> <li>教務（転出入、学籍等）チェック表作成（4月）</li> <li>管理職及び関係部署への連</li> </ul>	<p>●実施状況（教務・学年）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>これまで実施してきた教育活動のねらい、効果を確認する</li> <li>目的や目標に必要な教育活動の内容を教科横断的な視点で組み立てていく</li> </ul> <p>○実施状況</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>分掌組織の役割分担、内容の明確化と周知</li> <li>進行表の作成、実施、改善</li> <li>企画会、運営委員会、職員会議の計画的な設定・実施と協議内容の精選。</li> </ul> <p>○ガイドラインを活用した研修の実施</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>状況把握</li> <li>実施状況</li> </ul>	<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>前年度課題とされていた「企画会を定例とせず、臨機応変にしている点で、学校全体にかかわる大きな行事に大きな変更がなく行われる際は事案決定や伝達がスムーズに行うことができるが、企画会を通さずに物事が大きく変わる際の事案が決定の流れに乗ってしまうことがある。」ことについて、令和7年度当初に『事案決定の手順』については職員会議で共通理解し、儀式的行事、体育的行事、文化的行事などでは必ず企画会を通すことで適切に運営し、教員の合意形成をすることができた。</li> </ul> <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>前年踏襲を良しとせず、より良く改善する姿勢を大切にする。</li> <li>若手教員が増えてくることや、人事異動による教員の入れ替えが行われる中、教育活動のねらいを明確にし、手段が目的とならないように、また、原理原則をしっかりと押さえた教育活動とすることを今後も続けていく。</li> </ul> <p>部会ごとに、各担当別の業務内容の一覧を記載した進行表を作成。年度ごとに毎回各担当者が内容を更新し、誰が担当になっても業務内容が「見える化」されいている状態にしている。</p> <p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>進行表に仕事内容と担当者が明記されているので、いつ・誰が・何をするか、が明確である。</li> <li>度当初に『事案決定の手順』については職員会議で共通理解し、儀式的行事、体育的行事、文化的行事などでは必ず企画会を通すことで適切に運営し、教員の合意形成をすることができた。</li> <li>夕会時間が30分設定されているので、情報の提供や共有、連絡事項の伝達など、まとめて十分に周知することができる。</li> </ul> <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>児童数が減り小規模化が懸念されているが、仕事内容や職員配置、実施方法などがもっと大きな規模であったころと変わっていない。見直す必要がある。</li> <li>個人所有から分掌による文書管理（人が変わっても対応できる組織であるために）</li> </ul> <p>【サービス事故防止】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>個人情報の紛失を未然に防ぐため、職員室内の机上整理を徹底したほうがよい。</li> <li>各種チェック表の処理が形骸化することで、事故防止の手段が目的になってしまいがちな所に注意し、原理原則や目的を明確にすることが大切である。</li> <li>悉皆研修以外に、サービス事故防止に関する情報提供や指導を続けることで、教職員の危機管理意識を高い状態に保つ。親睦はあってもなれ合いにならない教職員の関係性や互いに注意や意識し合う教職員の関係を築くことも大切である。</li> </ul>

<p>         絡・報告・相談の徹底          ・職員夕会や職員会議におい          ての周知・確認          ・相談しやすい職場環境づく          り            ○教職員の働き方改革、ライ          フワークバランスの推進。          生活と仕事の調和を保ち、          心にゆとりをもって職務に          専念できる環境を作る          ・水曜日「ノー残業デー」          ・サポート体制の整備、チー          ム対応（担任一人で抱え込          まない・込ませない）          ・未就学児、要介護を必要と          する家庭環境の職員への相          談・支援体制、相談しやす          い場の設定          ➡衛生管理者 3 名の周知            ○組織的な研究・研修を行い、          授業力および生活指導力の          向上に努める          ・自己申告時における目標設          定の重視          ・学年 OJT を生かした校内で          の授業公開・交流の実施（自          己申告時の授業案内と参          観）          ・年間計画の作成・実施          ・学び合う子の育成と授業改          善の推進について年間 6 回          の研究授業の実施。（校内研          究）       </p>	<p>○状況把握</p>	<p> <b>【成果】</b>          ・要介護を必要とする家庭環境だが、副校長にとても相談しやすく、これからも仕事を          続けていけるのではないかなという安心感がある。          ・管理職を筆頭に、「自分の家庭も大事にしてください」という風土があり、家庭と仕          事の調和を保てる環境であり、共働き家庭でも安心して働けている。       </p> <p> <b>【課題】</b>          ・若手教員が中堅、ベテラン教員の経験や技能、指導力と自分自身を比べ、無理してい          ないか、精神的に追い込まれていないか等、学校体制で若手教員の育成に今後も関わ          っていくこと。（現在は比較的できている）       </p> <p> <b>【成果】</b>          ・校内研究をはじめ、ICT 活用、いじめ対応の弁護士講話、OJT 等の教員研修を充実さ          せ、教員の学びの機会を作ることで、授業力および生活指導力を向上させることがで          きた。       </p> <p> <b>【課題】</b>          ・児童数が減少し、単が級の学年が増える、若手の教員の比率が多くなる中で、充実し          た校内研究を行うために、柔軟な発想で研究を進め、目指す児童の育成や教員の指導          力向上を図ることが課題である。       </p>
--	--------------	--